

重点施策評価シート（令和4年度）

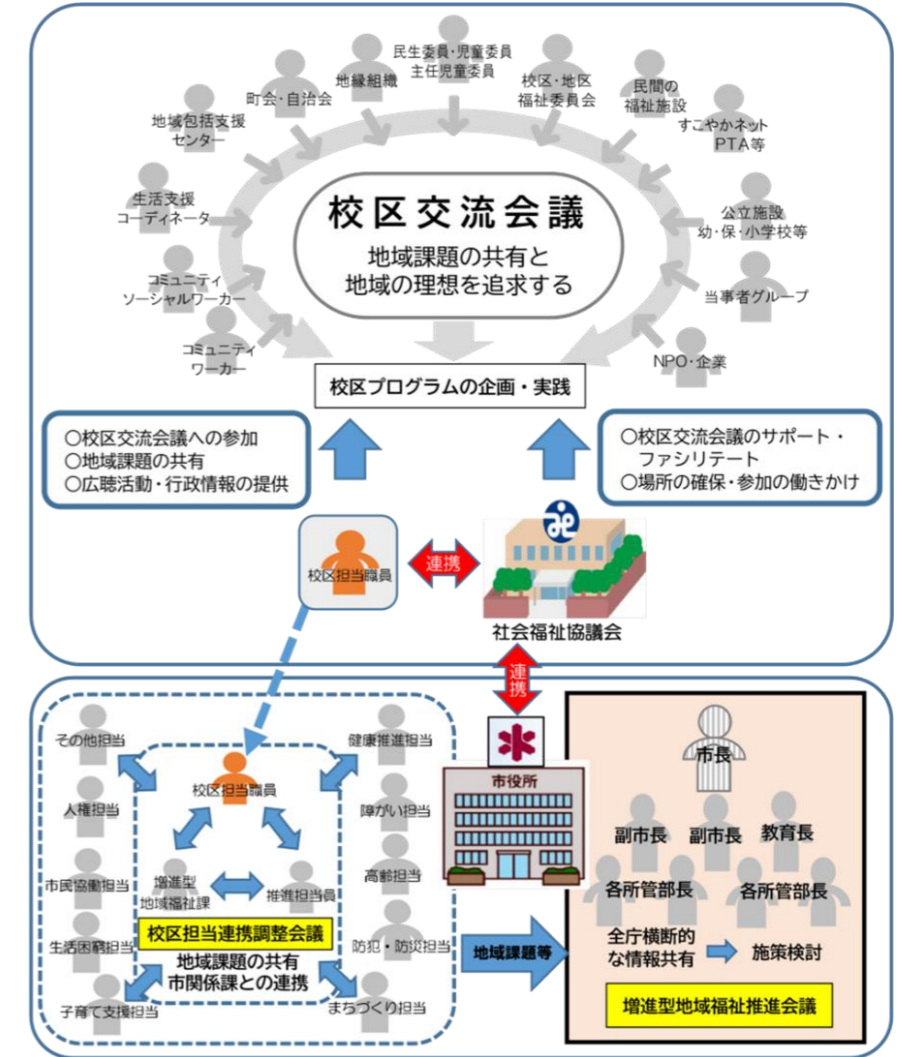
重点施策1 地域の理想の実現にむけた取組への支援

■主な取り組み・方向性

- ①市内16小学校区ごとに校区交流会議を開催し、地域課題の共有と地域の理想を追求します。
- ②地域の理想の姿の実現にむけた校区プログラムを企画・実践します。
- ③校区担当職員が校区交流会議に参加し、地域と行政のパイプ役を担います。
- ④全庁的な「増進型地域福祉」の推進に関する情報共有や課題解決にむけた施策の検討などを行います。

■量的評価

指標	令和8年度の姿	令和4年		進捗率	令和5年	
		計画値	実績値		計画値	実績値
① 校区交流会議参加者数 (実人数)	360人	計画値 296人	実績値 360人	121.6%	計画値 312人	実績値 —
	[取り組み状況等] 校区交流会議の新たな参加者が増えるよう、市のホームページに各小学校区の特色や会議の取り組み状況等を掲載した。また、市の広報（令和5年1月号）に校区交流会議の特集記事を掲載し、増進型地域福祉の考え方や各校区で実践された校区プログラムを紹介し、広く市民に関心を持って参加してもらえるよう努めた。					
② 校区担当職員の参加率 (参加会議数/開催会議数)	100%	計画値 100%	実績値 88.8%	88.8%	計画値 100%	実績値 —
	[取り組み状況等] 校区担当職員は1班2人体制としており、業務の都合で参加できない場合も、可能な限りどちらか1人は参加するよう努めた。校区交流会議が89回開催されたうち、校区担当職員は延べ79回参加したが、議会の会期中等、やむを得ず参加できない際には事務局（増進型地域福祉課）職員が参加し、地域と行政のパイプ役となるように努めた。					
③ 広聴活動報告数 (校区交流会議からの相談数)	48件 (3件/校区)	計画値 —	実績値 19件	—	計画値 48件	実績値 —
	[取り組み状況等] 10校区より19件の相談・要望等を受け、内訳としては「広報誌への掲載、情報発信」（3件）、「避難所備品リスト、地図データ等の資料提供」（6件）、「市関係課への照会・調整」（7件）、「会議運営経費」（3件）に関する内容であった。					



[参考] 関連する取り組みの令和4年度実績

校区交流会議開催数	89回（49回）
校区プログラム実践数	5回（2回）
校区担当連携調整会議開催数	4回（1回）
増進型地域福祉推進会議開催数	1回（0回）

※（ ）内は前年度実績

■質的評価

○コロナ禍の制限が緩和され、校区交流会議の開催が本格的に進む中、校区交流会議参加者へのアンケート結果では、「住民同士の関係性」や「地域のつながり」が進んだといった意見がある一方で、「参加者を増やす・広げる」、「活動の周知」や「校区ごとの交流」が必要といった意見も多くあった。市や社会福祉協議会の役割として、「住民の主体形成や連携力」の発展に向けて、より一層、取り組んでいく必要がある。

○校区担当職員による校区交流会議での広聴活動では、大半が校区プログラムを実践する上で、行政に対して必要な協力を求める内容であり、地域と行政のパイプ役として、校区プログラムの企画・実践にも寄与しており、参加者とのコミュニケーションの醸成や相談・要望等への対応を重ねることで、地域と行政の関係性の構築につなげている。

地域福祉推進委員会意見

校区交流会議は、地域の理想の実現にむけて行政・社会福祉協議会・地域住民・福祉関係団体等が官民協働で取り組んでいくものであり、参加者それぞれが無理なく、長く継続していくことが重要である。令和4年度は、全16小学校区において会議が開催され、参加者数（実人数）が計画値を上回るなど、一定会議が軌道に乗りつつあると評価できるが、一方で、まだこの会議を知らない地域住民も多く、参加者が固定してしまっているといった課題も見受けられる。他にも、地域と行政のパイプ役となる校区担当職員のあり方について、「できるだけ同じ担当職員に長く参加してもらいたい」といった要望があるため、配慮していただきたい。また、校区交流会議をより発展させ、かつ、長く継続して実施していくためにも、喫緊の課題である会議の認知度向上・参加者数の増加に向けては、市民が会議に関心を持ち、参加者が広がるよう行政の発信力に期待したい。